

人文社会 仕入れご担当様

いつもお世話になっております。ファクスお借りして恐縮です。ご発注よろしくお願いたします。
書肆心水 FAX 03-6677-0682

法と世の事実とのずれ ⑩月下旬刊

尾高朝雄著

国民の感覚とずれた法治・行政はなぜ生じているのか

変わる世の中と安定性を要件とする法の間にある関係の構造

法と社会の主要素（道徳・経済・政治）とのダイナミックな関係を問う尾高法哲学の基本的な視角を平易に示す、尾高法哲学入門

<p>7 6 5 4 3 2 1 慣習法と判例法 慣習法の法段階上の位置 慣習法が法となるための条件 慣習法の理論 成文法主義と慣習法主義</p>	<p>5 4 3 2 1 移動する合法性の限界 左翼絶対主義の立場 政治に対する寛容性の限界 政治における寛容の体系 政治における不寛容の体系</p>	<p>5 4 3 2 1 経済的利害の対立とその法的調整 法を裏切る経済的事実に対する措置 法を裏切る経済的事実との間のずれ 法と経済的事実との間のずれ</p>	<p>5 4 3 2 1 法と道徳的事実との間のずれの調整 法と道徳的事実との間のずれ 道徳共同体の崩壊 道徳共同体に対する法の不干渉主義</p>	<p>5 4 3 2 1 問題の展開 法と事実の融合 法と事実の闘争 法的に意味のある事実</p>	<p>1 法における規範と事実</p>
---	---	--	---	---	-------------------------

尾高朝雄（おたか・ともお） 1899年生、1956年歿。法哲学者。朝鮮に生まれ東京に育つ。1923年東京帝大法学部卒業後、京都帝大文学部哲学科で学ぶ。京城帝大助教授、東京帝大法学部教授（法理学、のち法哲学講座担任）を歴任。欧米留学時代（1928年から1932年）にはウィーンでケルゼンに、フライブルクでフッサールに師事。1956年5月ペニシリノ・ショックのため急逝。前期の代表的著書に『国家構造論』『実定法秩序論』。後期の代表的著作は書肆心水既刊の論集『ノモス主権への法哲学』『自由・相対主義・自然法』『天皇制の国民主権とノモス主権論』に収録。

新刊 注文取扱返条付（清藤）	取次番線印	<h2>法と世の事実とのずれ</h2> <p>⑩月下旬刊</p> <p>尾高朝雄著</p> <p>ISBN978-4-906917-97-6 C0032 A5判上製 256頁 本体6300円＋税</p>
	お名前	

ご注文は JRC へ 03-3294-2177 すべてのお取次への出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。（了解者 JRC 後藤）